



谷口 豪樹
たにぐち いくさき

谷口 範子
たにぐち のりこ

さん さん

この町の農業の未来のために 今、僕たちにできること

農業の面白さに惹かれて

震災後、避難区域となった山木屋地区の農家である妻の実家の立ち行かない様子を近くで見えるうちに、「僕にも何かできないか」そんな気持ちが強くなっていました。結婚し、義父が栽培する小菊等の花の栽培に関わる機会が増え、農業の面白さに惹かれていきました。そんな時、ポリエステル媒地活用推進組合の話から聞き、脱サラし本格的に農業を始めることを決意したのです。

常にチャレンジ精神で

義父のもとで花の栽培を手伝っていたので不安はありませんでした。むしろポリエステル媒地活用推進組合員の中には、ベテラン農家の方もあったので心強く、どんどんチャレンジしていこうと思いました。組合員たちで切磋琢磨して川俣をアンスリウムの一大産地にできると思った時は、とてもワクワクしました。



新たな農業の魅力づくり

ポリエステル媒地栽培プロジェクトでは携帯電話等の端末を通して散水を遠隔操作で行ったり、室温に合わせて自動換気を行うなど、新しい形の農業に取り組んでいます。これは少人数で大規模な農業をできる可能性を秘めていて、これから農業を始めたい、やりたいと思えるような農業の魅力を作れるのではないかと思います。僕が農業を始めたように僕たちの農業が他の誰かが農業を始めるきっかけになったらいいと思います。





高橋 佑吉さん
高橋 恵子さん

この町でいの人たち

この町で50年以上、土木建築業を妻と二人三脚で営んできました。かわまたアンズリウムの栽培を始めたのは、震災後、川俣町を復興支援する「オール近大プロジェクト」の一環で近畿大学が建設した栽培研究用ハウスの管理を任せられることになったのがきっかけです。海外の博覧会にいくほど花好きだった私は、ハウスの管理のお話をいただくと、二つ返事で引き受けました。平成23年のポリエステル媒地栽培プロジェクト開始から8年、妻と一緒にトマトやブロッコリーなどの実証栽培からかわまたアンズリウムの栽培に至るまで携わってきました。

このプロジェクトを通して感じているのは、「人に恵まれている」



佑吉さんの指導のもと孫の拓さんも栽培に取り組んでいる

ということ。近畿大学の先生をはじめ、組合員の皆さん、息子、孫、地元の方などたくさんの人の協力のもとにかわまたアンズリウムは誕生し、今その花を大きく咲かせようとしています。特に組合の11人のメンバーはとても良い人たちです。この11人だからこそ、大田花き市場への本格出荷が実現したのだと思っています。また、組合には農業の素人とプロがいることが強みであり、かわまたアンズリウムがこれからより一層花開いていく鍵になると思っています。これからも全員で問題を乗り越え、全員でこの情熱の花を咲かせていきたいと思っています。

今までもこれから

そして何より私が恵まれたのは妻に出会えたことです。土木建築業をしていた時から50年そばでずっと支えてくれた妻とは、かわまたアンズリウムの栽培をするようになり、以前よりずっと会話が増えました。土木建設業から農業へと業種は変わりましたが、これからも妻と二人三脚でかわまたアンズリウムの栽培に取り組んでいきたいと思っています。

この町でしかできないこと
この人たちとしかできないこと